

(平成20年2月分)

部 門	市況の概要
野 菜	<p>2月期の野菜の入荷状況については、全国的に降雪、降雨等の周期的な天候不順があり、非常に厳しい気象条件となった。しかしながら、この低温によって冬物商材の需要が伸びたため、中央市場の集散機能が発揮され、結果として、入荷量は前年同期を5%上回った。</p> <p>価格は、入荷増ながら、昨年が安値であったことと、低温により一般消費が伸びたことによって、結果として前年同期を15%上回った。</p> <p>品目別には、長大根、西洋にんじん、はくさいが入荷増ながら、単価高で推移し、とまと、ばれいしょは入荷増の単価安であった。さらに、キャベツ、ほうれんそう、レタス、きゅうり、なす、ピーマン、生しいたけが入荷減の単価高で推移した。玉ねぎは、入荷量、価格ともに前年を下回った。</p> <p>根菜類は、入荷が18%増加し、価格は31%高となった。</p> <p>葉菜類は、入荷は前年並みで、価格は36%高となった。</p> <p>果菜類は、入荷は前年並みで、価格は9%高となった。</p> <p>土物類は、入荷が4%増加し、価格は4%安となった。</p>
果 実	<p>2月期の果実の入荷状況は、主力の柑橘類とイチゴが順調な入荷状況となったことによって、結果的に前年同期を16%上回った。</p> <p>価格については、主力品目の入荷増によって、結果的に前年同期を16%下回った。</p> <p>品目別には、ミカン、伊予かん、イチゴ、アールスメロンが入荷増の単価安で推移し、ふじリンゴが、入荷減ながら価格が前年並みとなった。王林は、入荷量、価格ともに前年を下回った。</p> <p>柑橘類は、入荷が29%増加し、価格は32%安となった。</p> <p>りんごは、入荷が8%減少し、価格は前年並みとなった。</p> <p>いちごは、入荷が33%増加し、価格は19%安となった。</p> <p>メロンは、入荷が10%増加し、価格は20%安となった。</p>

主要品目（野菜）	市況の概況
【根菜類】	
長大根	<p>長崎県、徳島県を中心とする入荷。今日は気温が低く需要の伸び等から順調な入荷となり、前年同期を22%上回った。</p> <p>価格は、入荷増ながら、寒さによる需要の伸びと昨年が記録的な安値であったこともあって、前年同期を26%上回った。</p>
西洋人参	<p>鹿児島県を中心に長崎県からの入荷。各産地ともに概ね順調な入荷状況で、豊作傾向から産地廃棄された産地等もあった。結果として前年同期16%上回った。</p> <p>価格は、入荷増ながら、主力の鹿児島産の入荷が少なかったこと、中国産の消費の低迷によって極めて高値での推移となり、前年同期を72%上回った。</p>
【葉菜類】	
はくさい	<p>愛知県、兵庫県、鹿児島県を中心に長崎県からの入荷。各産地ともに寒波の影響から生育が遅れていたが、この寒さが一般消費の需要を高め、市場の集散機能が発揮された。結果的に前年同期を29%上回った。</p> <p>価格は、入荷増ながら、寒さによる需要の伸びと昨年が安値であったこともあって、前年同期を45%上回った。</p>
キャベツ	<p>愛知県を主力に兵庫県、大阪府、滋賀県からの入荷。各産地ともに2月の周期的な天候不順から不安定な入荷状況となった。結果的に入荷量は、前年同期を12%下回った。</p> <p>価格は、入荷減に加え、中国産冷凍食品の残留農薬問題から国産需要が極端に高まり、結果的に前年同期を78%上回った。</p>
ほうれんそう	<p>京都府を中心に徳島県からの入荷。近郷産地は、降雪の影響から不安定な入荷状況となり、結果的に前年同期を4%下回った。</p> <p>価格は、入荷減によって、前年同期を16%上回った。</p>
レタス	<p>兵庫県、長崎県を中心に徳島県からの入荷。各産地ともに降雪・降雨の影響から小玉傾向で、非常に不安定な入荷となった。結果的に入荷量は、前年同期を7%下回った。</p> <p>価格は、入荷減によって、結果的に前年同期を3%上回った。</p>

【果菜類】	
きゅうり	<p>宮崎県を中心に高知県からの入荷。主力の宮崎県、高知県産が天候不順により、不安定な入荷状況となった。結果的に入荷量は、前年同期を5%下回った。</p> <p>価格は、入荷減によって、前年同期を22%上回った。</p>
なす	<p>高知県を中心に、岡山県からの入荷。各産地ともに、加温用重油の高騰から加温コストの抑制をしており、栽培環境は悪化しているため、不安定な入荷状況の中、入荷量は前年同期を19%下回った。</p> <p>価格は、入荷減によって、前年同期を14%上回った。</p>
トマト	<p>熊本県を中心に福岡県からの入荷。各産地ともに低温の影響を受け、潤沢な入荷が見込めない中、中央市場の集散機能が発揮され、結果的に前年同期を7%上回った。</p> <p>価格は、入荷増によって前年同期を5%下回った。</p>
ピーマン	<p>宮崎県を中心に高知県からの入荷。各産地ともに、前月までが前進出荷であったために、今月は減少した。結果的に前年同期を14%下回った。</p> <p>価格は、入荷減によって、結果的に前年同期を22%上回った。</p>
【土物類】	
ばれいしょ (メーク含む)	<p>北海道を中心に鹿児島県からの入荷。各産地ともに順調な入荷状況となり、結果として、入荷量は前年同期を15%上回った。</p> <p>価格は、入荷増によって前年同期を12%下回った。</p>
たまねぎ	<p>北海道を中心に兵庫県からの入荷。北海道は概ね順調な入荷となったが、兵庫県産は在庫も少なく品薄の状況となった。全体としては前年同期を8%下回った。</p> <p>価格は、入荷減ながら価格低迷が継続しており、前年同期を20%下回った。</p>
生しいたけ	<p>徳島県、和歌山県を中心に広島県、岡山県からの入荷。国内産の需要が高まりから入荷量は順調となったが、中国産の消費の低迷から中国産が減少し、結果的に、前年同期を4%下回った。</p> <p>価格は、入荷減と国産需要の高まりから、高値での取引となり前年同期を34%上回った。</p>

主要品目（果実）	市況の概況
みかん	<p>和歌山県を中心とする入荷。高温旱魃の影響から小玉中心の入荷となったが、昨年が極端な入荷減であったことから、前年同期を58%上回った。</p> <p>価格は、入荷増に加え小玉傾向で、さらに前年が裏年で極端な高値で推移したこともあり、結果的に前年同期を43%下回った。</p>
伊予かん	<p>愛媛県を中心とする入荷。作柄は良好なもの、小玉傾向で産地の出荷調整等もあり、入荷量は若干の増加傾向となった。結果として、前年同期を3%上回った。</p> <p>価格は、入荷増に加え、昨年が柑橘類全般に高値相場であったことから前年同期を32%下回った。</p>
ふじ (サン含む)	<p>青森県を中心に岩手県からの入荷。各産地ともに、大玉傾向で産地在庫も例年並みの状況であるが、入荷量は、結果的に前年同期を5%下回った。</p> <p>価格は、入荷減ながらも前年並みとなった。</p>
王林	<p>青森県を中心とする入荷。本年はりんご全般の価格低迷もあり、入荷量は大幅に減少した。結果的に入荷量は前年同期を23%下回った。</p> <p>価格は、入荷減ながら価格低迷が続き、前年同期を18%下回った。</p>
いちご	<p>福岡県、佐賀県、熊本県を中心に大分県、愛媛県からの入荷。各産地ともに2番果へ切替わり安定した入荷状況となり、結果として入荷量は前年同期を33%上回った。</p> <p>価格は、入荷増によって、前年同期を19%下回った。</p>
アールス	<p>静岡県、宮崎県を中心とする入荷。静岡県産は減少傾向にあるが、宮崎産が順調な入荷となったことから、結果として入荷量は、前年同期を7%上回った。</p> <p>価格は、入荷増によって、前年同期を20%下回った。</p>